

新幹線による新駅周辺整備

南3条通の跨線橋の撤去後の道路はどうなる

町長 在来線存廃の協議を急ぐよう要請する



政信 議員

町長

跨線橋の取り壊し時期、仮踏切や迂回路は、新幹線建設主体の鉄道・運輸機構、道道管理者の小樽建設管理部の協議となる。道路法等で鉄道と道路の交差は立体交差と定められている。俱知安インターによる道路交通量の増加が見込まれるので新たな踏切の設置は難しい。利用者の利便性が損なわれないよう協議したい。新幹線開業時にJRから経営分離される在来線の存続は、開業5年前をめどに、北海道新幹線並行在来線対策協議会で決めるが、議論が進んでいない。存続等の判断を前倒しするよう求めている。

榊

木古内町で新幹線駅周辺整備に10年かかった。平成42年開通であれば、平成32年には動かなければならない。あと3年だ。木古内の第三セクター道南いさりび鉄道は、10年間で23億円の赤字、11年以降も赤字だという。在来線を後志に残すのであればそれなりの覚悟が必要だし、まちづくりにも影響する。精力的に協議会で議論すべき。

榊

南3条通(道道俱知安二七コ線)の跨線橋は、新幹線が高架橋構造となるため撤去される。その後の道路は、在来線存続の場合は新たな跨線橋かアンダーパスのどちらか。在来線廃止の場合は地上道路となるようだ。跨線橋やアンダーパスなど俱登山川があるので川をまたぐ大掛かりなものとなる。南3条通の南北の行き来が難しくなる。踏切方式とならないか。

在来線の存廃の結論を先延ばしせず協議を進めるべきではないか。



撤去される跨線橋、その後の道路はどうなる

町長

スピード感を持ってやらないと本町のまちづくりの支障を来す。早く方向性を出すように、町も腹をくくらないといけない。三セクで運営できるのか、バス転換した場合の課題もある。地域の生活の足として必要な対策はしっかりやっていく。

榊

議会報告会での意見「年をとって暮らしていると、雪が一番の問題になる。除雪のことがきっかけで、町外に出ていく人もいる。高齢者の雪対策をしっかりとやってほしい。」また、「どうして4m幅の道路の除雪をしてくれないのか。」 どう答える。

町長

私道は、私道除雪補助制度を活用してもらっている。一部補助の仕組みの公平性を考慮の余地がある。間口除雪に係る高齢者等の負担の軽減などの課題もある。引き続き検討を進めていく。



長く暮らすには除雪が課題

一般質問 榊 政信

高齢者が安心して長く暮らせる住みやすい町

その他1件質問しました